

基調講演 2

「市民交流空間と市役所が一体となったまちづくり～『アオーレ長岡の実践』～」
長岡技術科学大学 副学長 中出 文平氏

まず、最初にこちら (P.1) をご覧ください。長岡駅です。上越新幹線と在来線の駅です。日本で一番長い川の信濃川がうっすらと見えます。市街地の中を幅 1 キロメートルで分断されているのは我が長岡市くらいでして、こちら側に 10 万人弱、こちら側に 15 万人くらいが住んでおります。今日お話するのがこの部分にできた「シティホールプラザアオーレ長岡 (以下、「アオーレ長岡」)」という新しい施設です。長岡市のことはご存知の方もおられるかもしれませんが、少しお話させていただきますと、東京駅から新幹線に乗ると 100 分くらい、新潟県のちょうど中央にあります。

旧長岡市は面積が 260 平方キロメートルで 19 万 2 千人くらいの人口で、10 市町村と合併し、いま面積が 1 千平方キロメートル弱、人口が当初 29 万人くらいで、その後少し減りましたが。会計規模は人口規模と比例しますので、予算規模 2,400 億ということで、防府市の人口の 3 倍くらいいますから会計規模もそれなりに大きいです。

歴史としては、江戸時代に三河の譜代大名の牧野氏が来てそのまま一度も変わらずに、明治維新を迎えたときに北越戦争で長岡藩は中立を主張したのですが、中立は駄目だということで、長州藩の方のお墓が長岡近辺には山のようにありますが、城を取られて、取り返した後、もう一度取られたということで激戦地となり、市街戦の末、落城しました。これが一度目の悲劇で、それから復活します。ところが、その後第二次世界大戦が終わりを迎える 8 月 15 日の直前の 8 月 1 日に空襲を受け、これで市街地が消失します。実は、長岡市の市章は「長」という字なのですが、これは、不死鳥、フェニックスを表しています。三度目の悲劇は、今からおよそ 13 年近く前になりますが、2004 年の 10 月 23 日に中越地震が発生します。その後起きた東日本大震災に比べれば規模的には小さいわけですが、長岡市は三度叩かれて三度復活している、そういう市です。

そういう中で長岡市は市全体の計画として、「コンパクトに 絆でつなぐ まちとまち 長岡」というキャッチフレーズで、11 もの市町村が合併していますので、それぞれの元の中心を生活の拠点としつつ、中心部を都心として位置づける、そういう構造 (P.3) にしようと考えました。

これ (P.4) は中心部を少し拡大しているのですが、長岡駅があり、長岡駅の周りに中心市街地があります。平成に入りいくつもの大型店が出てきているので、今はこういう広がりを中心として位置づけ、この都心の中にいろいろなものを入れていこうということで、中心市街地活性化基本計画も作られています。

駅の目の前に中心市街地があります。どうしてかというと、長岡駅があり、上越線と信越線が通っていて、長岡駅が本丸です。「アオーレ長岡」という今の市役所にあたるものがあるところが二之丸です。長岡市民は北越戦争で本丸を潰されて駅にされたのは不幸だと思っているのですが、実は、人間万事塞翁が馬で、おかげさまでと言うとなんですが、駅がまちのへそのままあり続けるのです。本丸、二之丸とあって、こちらが武家のまちで、大手通り、町人や下級武士のまちがあって、つまり駅のある場所が常に市街地の中心であり続けました。

これ (P.6) が今から 2 年くらい前の航空写真ですが、駅があって、大手通り、大手という名前から城下町であることが分かるのですが、これから紹介する「アオーレ長岡」、それ以外にも再開発をいくつか行い、大手通りのだいたい 500 メートルくらいを中心に中心市街地が形成されています。

私は、平成元年に東京から長岡に赴任したのですが、私の前任者が何を言ったかということ、「長岡はすごいぞ、人口は 10 数万人なのに、百貨店が 4 つあり、スーパーが 3 つあり、全部まちなかにあるのだからと誇っていました。」実際にイチムラ、丸専、丸大、大和、原信、長崎屋、ダイエーと 7 つもあったのですが、実は今はひとつもありません。この後紹介しますが、この辺りはみんな再開発されており、全くなくなっています。

中井先生の講演の中で富山市の事例で大和が出てきましたが、今から 6 年前に新潟県に 3 つあったのが同時に撤退したということもあつたりして、今、何もありません。まちなかの空洞化、大型店がなくなっています。なおかつ、ここの道幅が、片側 3 車線もあるので最寄りの商店街としてはかなり道幅が広がったということ。

これ (P.8 左上) は、昭和 47 年となっていますが、この時アーケードは土日は肩がぶつかって歩けないと言われたそうです。それが、平成 10 年頃、何をしていたかということ、大手通りに地下駐車場をつくったり、低いアーケードを高くしたり、いろいろな事業を行っていたのですが、それでは果がいかず^{はか}にシャッター街になっています。中心市街地が衰退してはまずいということで活性化に向けた取組がされるようになり、最初に何を行ったかということ、撤退した百貨店を長岡市が借りて市民センターを開きました。閉じた百貨店のようなものを市が借りてやるというのは長野に「もんぜんぷら座」というのがあって有名なのですが、実は長野の人は長岡のこれを見てまねをしたと言っていながら、長野がすごく有名になりました。新潟の人は宣伝下手であまり知られていないのですが。

その後、平成 15 年に前市長の森市長が「中心市街地構造改革会議」という会議を設けました。商工会議所の会頭が座長で、私が副座長をさせていただいて今は全国区ですが、当時はそれほど有名ではなく、知る人ぞ知る藻谷浩介さんという

方や、亡くなられてしまいましたでしたが北沢猛さんという東京大学の先生にもアドバイザーになっていただいたりして、1年間非常に一生懸命議論したうえにおいて、「まちなか型公共サービス」という概念を用いて中心市街地は、商業だけでなく文化、学習、ここ（P.9）には行政も入っていますが、いろいろな機能があって、まちなかにあった方が良いものは全部入れれば良いと言いました。これが平成16年3月です。そしていくつか種地があり、そこを先導事業ということで、先ほどの閉店してしまった百貨店のところ、それから、これから紹介するいま市役所がある所。こういった所を再開発、市の単独事業でいろんなことをしてまちなかに回帰させるということをしせました。ただ、実際は16年3月に提言書を出しながら、その年の10月に中越地震が起きていますので、2年間頓挫した、やりたくてもできなかったわけですが、これも万事塞翁が馬で、実は良い方向に転びます。実際に多くの人がまちなかを訪れ、多くの人が行き交っています。

これ（P.10）は実証実験ですが、先ほど申しましたように中心部にあった百貨店を丸ごと借りて中にハローワークを入れたり、花見、ギャラリーを入れたりいろいろなイベントを行ったり、地下には若者向けの音楽を鳴らしてもよいスペースをつくったり、いろいろなことを行いました。そういう社会実験をしたうえで今に至るのですが、ひと通り復習しておきたいと思います。

これが長岡の中心市街地で（P.11）、円の半径が約500メートルです。元々市役所は明治39年の市政施行のときに中心部（P.11①）にありました。その後、20年ほどで手狭になり少しだけ移りました。大和という百貨店の場所（P.11②）です。その後、昭和30年にここ（P.11③）に出ます。そして、昭和52年にここ（P.11④）に出ます。ここは直線で2キロメートル以上離れていて歩いていくのは少し大変です。その後、平成の大合併を経て平成24年にここ（P.11⑤）に戻ります。元の市役所の跡地は、市立劇場があるのですが、それとともにここはさいわいプラザという形で市民の集まる場所、あるいは健康増進の場所です。

なぜここ（P.11④）からここ（P.11⑤アオーレ長岡）に移すことになったのかというと、11市町村で合併して非常に広くなりました。バスに乗って一時間くらいかかる場所もできました。なおかつ手狭になってきて、元々ここ（P.11④）にあった市役所だけでは足りないの、社会実験の後、分室をいくつもつくって庁舎を分散させていたわけです。

ところが、大震災が起こり、旧耐震基準の建物なので耐震性が足りない、耐震補強をすると10数億円かかるのでどうするかということと、まちなか自体にも問題があるということで「行政機能再配置検討市民委員会」ができ、私もこの委員をさせていただきました。市議会とも議論し、結果的には現在地での建替えも含めて4つの候補地があったのですが、その中で一番良いのが、とにかく中心市街地に移転することだという結論になり、引き続き、このメンバーとは違う市民の

メンバーで「新しい市役所検討市民委員会」や市民ワークショップを開いてどう
いう市役所にするかというコンセプトをつくりました。

ここ（P.13 駅に最も近い円）に「アオーレ長岡」ができるのですが、お手元の
パンフレットを見ていただくと非常によく分かるのですが、これには最初から最
後まで市役所ということばがほとんど出てきません。「シティホールプラザ アオ
ーレ長岡」と言います。それ以外に 3 つの再開発、終わったものと進行中のもの
があり、ここ（フェニックス大手）と、市民センターに市役所の施設が入ってい
る。このほか、健康の部局などはまだ郊外にいますが、いずれ再開発ができ
た時にはまちに戻ってくるということで、市役所機能は、本体はここ（アオーレ
長岡）ですが、あえて分散配置させて、まちなかに賑わいや回遊性を創出しよう
というのが長岡市の考え方です。タテに高く積むのではなく、大手通りという廊
下でヨコに広げようと。雪国ですので、ずっとここにはアーケードがあります。
雁木の大型版です。

平成 24 年 4 月に「アオーレ長岡」がオープンしました。「アオーレ長岡」とい
うのは、ここ（P.14）に黄色と黄緑がありますが、ここの部分が広場になってい
て、特に黄緑の部分が屋根付き広場です。これは富山の「グランドプラザ」を真
似てつくったものです。雪国ですので、冬に雪や風をよけるということで。そし
て、奥にバスケットボールのコートが 3 面くらいとれるアリーナ、ここはいま B
リーグチームの本拠地となっております。ピンク色の部分が市役所で、紫色が市
民交流部分ということで、市役所とさまざまな機能が合体しているスペースとし
てつくられています。設計者は隈研吾氏で、これ以降世界中でいろいろなものを
造り、今は新国立競技場の設計者にもなっています。

「アオーレ長岡」という名前は何かというと、長岡弁で「会いましょう」とい
うのを「会おうれ」と言います。5,500 もの応募があった中で当時の中学生が考え
た「アオーレ長岡」という名前にしました。なおかつこれ（P.15 のマーク）が「ア
オーレバード」というのですが、これは、有名なデザイナー（森本千絵氏）がつ
くってくれていて、この「アオーレバード」が長岡市のいたるところに象徴とし
てあります。

市役所全体は「ナカドマ」という広場空間の周りに建物があり、行政の部分と
市民活動をする部分がモザイクとなるようにしよう、なおかつ中間的な領域とし
て造ろうということになっています。パンフレットの 19 ページに「施設諸元」と
ありますが、建物の面積は 12,000 平方メートルありますが、市役所機能としては
10,000 平方メートルくらいしか使っていません。実際にいまアオーレは何に使っ
ているかと言いますと、年間 450 を超える市民イベントは「ナカドマ」で行って
いるものもありますし、アリーナや市民協働のスペースで行っているものもあり
ます。

そういうものを多様なパッケージで行い、市民には無料化しています。支援組織は、市の市民協働推進室以外に市民協働センターを運営するNPO法人があったりと、全体として市民が運営している形です。毎年100万人以上の人がこの「アオーレ長岡」を使っています。なおかつ、遠くからは、印鑑登録証明や、住民票は地元の窓口でとれるのですが、まちなかに来るのもバス1本でどんなに大雪のときでも問題なく来られるという形になっています。

市役所に併設された市民協働の拠点を市の担当課とNPO法人がセンターの運営を担う組織、「ナカドマ」等のイベントを担う組織という2つの官と民の協働・連携で「アオーレ長岡」全体の管理をしています。「アオーレ長岡」では「ナカドマ」と奥のスペースを使って成人式を毎年行っています。また、合併した市町村のいろいろなイベントの出前をまちなかで行っている。そして年に1度、ビール飲み放題とは言いませんがビールと車の展示をする「ドイツフェスト」。3階にテラスがありますが、ここは保育園の遠足などによく使われています。

これ(P.20 左上)が航空写真ですが、大手通りがあり、ここに元々は展示会もやる、プロレスもやる、ダンスもやるという市民の厚生会館がありました。その手前に公園がありました。奥にも公園がありました。それら市の土地を一緒にして公園は外に同じ面積で移して、ここの部分(P.20の黄緑で囲まれた部分)を現在アオーレという形で使っています。大手通りが歩行者天国の時には、歩行者天国から「ナカドマ」の方にずっとシームレスで連続していろいろなことができるようになっています。

アリーナは先ほど申しあげましたように、プロバスケットボールチームの本拠地になっていたり、いろいろなことがされています。あるいは有名な歌手が来たりしてくれています。では、市役所ってどうなっているのかというと、1階部分に集中的に市民の窓口があり、コンシェルジュがいて、「〇〇したい」というと大体1階で全てが片付くようになっています。

2階部分に市役所の職員がいて2階から1階にいろいろな手続きの書類を持って降りて行くという仕組みになっていて、3階、4階も使っていますが、1階でワンストップで全てができるようになっています。ここの部分(パンフレット P.18 1階平面図参照)にモスバーガーとセブンイレブンが入っていて、市民や市役所職員もそうですが、「ナカドマ」に椅子がたくさんありますので、季節のいいときにはここで食べたりします。西側に議会や市民センターがあるのですが、市役所に行きながらいろいろなことができるという仕組みになっています。

「アオーレ長岡」以外にも複数の再開発、大手通中央東地区、大手通中央西地区、大手通表町西地区をしているのですが、再開発をしているのがすごいのではなく、再開発をした中に必ず市役所の部局が入っていて元々はどちらも大型店舗だったわけですが、こちら側(P.24 B棟)が銀行の建物、C棟が行政棟になっ

ており、上に行政組織の都市整備部が入っており、3階、4階、5階は違う使い方をしています。これ（P.26）が断面図ですが、C棟の7階に「まちなか型市役所」と書いてあります。また、4階に「まちなかキャンパス」があり、生涯教育などの施設が入っています。「まちなかキャンパス」というのは、実は長岡には3の大学とひとつの高専があつて、結構高等教育機関があるのだけれど、みんな離れたところにあるので、「まちなかキャンパス」というのは市の場所ですが、3大学1高専が共同で運営して、お金も少し出して長岡市民の生涯教育に貢献しようということで、私もこの「まちなかキャンパス長岡」の副学長を仰せつかっています。

「まちなかカフェ」は、年に100回開かれています。そして、「まちなか大学」という1週間くらいかけて行う講義、「まちなか大学院」はもっと長く自分の研究をするものなど、いろいろなことをしています。なおかつ、これは大学の先生だけでなく、3大学1高専の学生も入って運営もしておりますし、市民がボランティアとして運営に関わっています。

それからこの建物の2階に、平成16年に大きな被害を受けた長岡及び長岡近辺の中越地震の記憶を残そうということで、アーカイブセンター「きおくみらい」というものがありまして、P.29の写真では少し見にくいですが、床の部分に中越10キロ四方くらいの航空写真があり、そこにiPadをかざすと当時の状況が映るようになっていきます。それから防災の学習のために使われています。これも市の施設で、なおかつ市民、あるいは、小学校、中学校の子ども達が年に1度ここに来るので、そういう防災教育に資したものです。

それからもうひとつ横の建物（P.30）、こちらも大型店舗だったのですが、再開発をして、上はマンションで、下の部分に子育て支援施設が入っております。これも市の施設で、この子育て支援施設の中身は、ひとつは、「子育ての駅」というのが郊外にあるのですが、このまちなか版として「子育ての駅 ちびっこ広場」というものがあり、それとともに、絵本だけに特化した図書館「まちなか絵本館」があります。ここは若いお母さんと子ども達がいっぱい来てくれています。これもハード、ソフトは、郊外にあった子育ての駅を運営していただいていた特にお母さんの声などがあつていまご利用いただいています。

そして、つい昨年出来上がったのですが、角の一番いいところに再開発が出来上がりまして、これも上はマンションですが、下の部分に協働の施設が入っています。P.36の【中層棟】の1階から3階は社会福祉協議会や福祉関係の施設、上は老人ホームなどが入っていて、この再開発は福祉を中心にする再開発という形になっていて、「トモシア（P.37）」という名前がついています。福祉カフェや社会福祉協議会もここに入っていますし、その関連団体も入っています。それから、ボランティアの施設、相談、支援とかそのようなものを全部一体として入れるような形で、ここも市役所の一部の役割を果たしています。

今進行中なのは (P.37)、大和が 6 年前に撤退して無償で長岡市にここを譲ってくれたのですが、その奥にある商工会議所とこの土地とこの辺りの地権者とで福祉をテーマにした再開発と連動する形で再開発を行なおうとしていて、こちら側は文化と教育にしようということで、もう少し北側に古い長岡市発祥の図書館、それこそ藩校からの図書館で「互尊文庫」というのがありますが、老朽化しているのでこれをいれようということで今計画をしています。この場所が米百俵の精神の発祥の地であった国漢学校があったところでもある、そして、旧市役所でもあるということで大事にしようということです。そして、商工会議所が床をもっていらっしゃる部分については、中小企業の方への情報発信の場としようということで、もうすぐ再開発協議会が出来上がって都市計画決定に向けて動き出すと思います。

こういう動きの中で、駐車場をどうするかという時に、いろいろな議論があったのですが、長岡市は大きな駐車場は用意しないということにして市役所の地下に駐車場は一応用意する。でも 103 台分です。それ以外に、大手通りの地下に 2 層の駐車場、それ以外に平面駐車場 1 箇所と立体駐車場 1 箇所があって (P.39 赤色で示した箇所)、市営の駐車場だけで 525 台。そして、周りをよく見ると駐車場はたくさんあるではないかということで、市営駐車場はそもそもの値段が 30 分 150 円だったのを 100 円にするのと、市役所を使っていた方には 1 時間は無料にする、あるいは、先ほど申し上げた「まちなか絵本館」を使ったりする人などにも無料になるような形で駐車場の数は揃っているのだから、あとは使い方の問題だということで、非常に限定的に地下の 1 階部分にしか駐車場は用意していません。

また、先ほど中井先生が、「集まる仕組みが必要だ。」ということをおっしゃいましたが、長岡市は雪国で、今年の 1 月 14、15 日の大学入試センター試験の時には全国ニュースに載り、朝日新聞のトップにも載ったように雪が降れば試験ができなくなるだろうと思われるようなすごいところです。ですので、デッキはつくるけど、デッキの屋根や壁がなかったら吹きさらしでカチンカチンになってしまう関係で全部屋根付き壁付きのデッキが張り巡らされています。駅から駅前の道を渡ってそのまま商店街の方にも下りられるのですが、こちら側には市役所の 3 階に直接入れるようになっています。このデッキも「アオーレ長岡」が出来上がるのとほぼ同じ時期につくりました。お陰で駅の向こう側の人達がそのままこちらの方に歩いて来れるようになりました。そして、この部分 (西棟、東棟の地下) に地下の駐輪場をつくって自転車も置けるようにしました。これが駅です。この奥に「アオーレ長岡」があります。これ (P.41 右下) がデッキです。駅前広場がありますが、デッキというのは今こういう形でかなりいろいろ使われています。

実際に平成 16 年の 3 月に構造改革会議の提言で「まちなか型公共サービス」これは、もう商業だけの中心市街地ではないということで、商業から市民活動の場に再生するという事を、地震で一度はトーンダウンしましたが、それが本当に契機となり、まちなかにいろいろなものを移すようになりました。平成に入るくらいまでは図書館も体育館も郊外に出る、市役所も先ほどのように郊外に出ていたのですが、多くのものがまちなかに戻ってきている。

「アオーレ長岡」、これが市役所プラス体育館、アーカイブセンターと生涯教育の施設、隣に子育ての施設、福祉、そして今後再開発が出来てくれば教育、文化の施設、そして前から使っていた市民センターは今タニタが健康のためのいろいろなことをプロデュースしている、そういう拠点もあります。そういった形で、駅からすぐの場所に人が集まる所ができたので駅から 500 メートルの部分に人が集まるところができれば回遊ができるようになるよねということでこの部分を一生懸命やってきました。

全体とすると、平成 27 年度これらを合計すると 180 万人くらいまちなかに人が来ているよという数字を市役所があげています。「アオーレ長岡」だけに限ると、市役所を使う人が平均で 20 万人ちょっと。市民協働センターを使う人が平均で 20 万人くらい。そして、全国から市や市議会の方が見学に来られます。イベントが大体毎年 100 万人弱くらいという形で、非常に多くの方に来ていただいています。稼働率もこうして見ていただくと (P.44)、「ナカドマ」、「アリーナ」、「ホールその他」それぞれかなりの稼働率で、これは運営しているNPOなどがかなり努力されているということもありますが、「ナカドマ」などは年がら年中何かをやっているという感じです。

おかげさまで市民からは「アオーレ長岡」の誕生、つまりまちなかに市役所が移り、市民協働センターみたいなものができる人が集まるものがあったことに対して「効果あり」と言ってくれている人達が 95 パーセント(P.45)で、特に「長岡のイメージがよくなった」、「中心街に出かけるようになった」というような意見があります。否定的な意見もないわけではないですが。

実際の効果としましては、駐車場をあまり整備しておらず、「アオーレ長岡」の地下駐車場だけが整備した部分ですが、その駐車場に 1 日に 481 台、それ以外の地下の駐車場も利用率が上がっています。昔は誰でも入れた地下駐車場だったのですが、待ち時間が発生しています。そして、店舗数が激増しています。これは、市役所がまちなかに出てきて市の職員が、中にはお弁当屋さんから買われる方もたくさんいらっしゃいますが、ぜひまちなかに出て食事をするようにという市の上層部の方針もあり、まちなかに食べ物屋が増えました。それ以外にもお店が増えています。一方で、空き店舗が減っています。これ (P.47) はまだ平成 28 年度の数字が入っていませんが、明らかに空き店舗が少なくなってきました。もう

ひとつは長岡の地場の銀行で、北越銀行の本店を再開発したいという話があるので、それを含めてもうひとつ何かできないかというようなことをこれから考えようとしています。

これは、私はあまり関わっていないのですが、「長岡まちなか民間活力創造研究会」が立ち上がり、「今後これを動かしたい。今までは行政主導だったのだが、これからは民間活力を活かしていこう」ということを言っています。そして、「アオーレ長岡」には人が来てくれるけれども中心市街地の黒柱の回遊性を向上させたいということでやっと大手通りが一番端の部分に再開発ができ、そこに社会福祉協議会や障害福祉センターなどが入っていますから、そういうところも含めた回遊性を向上させれば少しまちなかで人が動き回り、お金も落ちるのではないかと目指しています。

これまでは、「アオーレ長岡」を完成させて「まちの顔」や市民の居場所、最初に構造改革会議を行ったときに、「ハレ」の場としての中心市街地、晴れ着の「ハレ」ですね、着飾っていく場所としての中心市街地ということを行いました。長岡というのは昭和 20 年代、30 年代から周辺の近郷の人たちが集まる場所だったのです。50 歳代半ばから上、40 歳代の方でも知っていらっしゃる方がいらっしゃいますかね、「夏子の酒」という漫画がありまして、この後ドラマで和久井映見さんが主演されたのですが、その舞台が実はいま長岡市になっていて、車で 1 時間弱かかる旧和島村というところですが、その主人公の夏子が「まち」に出るといって、「アオーレ長岡」のある場所にあった厚生会館に行って人と待ち合わせをするのですよね。そういう意味では、長岡近辺の人が中心部、「まち」へ出ると言えば、長岡の「まち」ですし、そういう「まちの顔」を取り戻す、市民の誇りの場としてもう一度取り戻すということをやろうとしてきている中で、一期目の構造改革会議の話は終わった。今後それを波及させていくためにということで平成 25 年度に「ながおかまちなか創造会議」というものを作って、今手がけようとしているような再開発やいろいろなものを提案しています。

これは私が委員長を仰せつかっていて、まちなかの居住を重視していこうということで私や中井先生、鷗先生の研究仲間の弘前大学の北原先生という、まちなか居住の専門家に副委員長として青森から年に 5、6 回長岡まで来ていただいています。そういう中で公共サービスはよいが、今後はアオーレだけでなく、もう少し継続的にいろいろなことをやっていく、そのためには公共サービスだけでなく民間活力を展開する、まちなか居住をすることだよということで、これ (P.50) がいま考えているイメージで、いろいろな点的施設は市がつくった、ここまではできたんですね。それを大手通り以外の道路沿いなどに民間が自力でいろいろなことをやっていったりして波及効果を広げていく、少なくとも大手通りから 1 街区、2 街区くらいのところまでを中心市街地として、面として広げていきたいとい

うようなことを考えています。

このような中で、「アオーレ長岡」ができ、中央には再開発ができ、健康と福祉は大体でき、教育、文化をこれからやっていく。行政が中心となってやっていく部分は出来たので、今後は民間の人にも頑張ってもらって商業機能も身の丈に合った民間活力を入れて市役所、あるいは市民協働施設だけではないような形で中心市街地を活性化させていきたいということを考えています。

今ほど使わせていただいたパワーポイントのほとんど全ては長岡市から提供してもらっているので、最後に長岡市の宣伝をさせていただきます。

東日本では、「うちのまちの花火は日本一」と言っているまちが3つ、4つあります。長岡市もそうです。長岡市には3尺玉という花火と1キロの橋（長生橋）にかかるナイアガラという花火。この花火を8月1日が空襲でやられた日なのでその弔いの意も込めて8月2日、3日に曜日関係なく毎年上げています。なおかつ10月23日の中越地震のこともあってフェニックス花火というのを上げたりして平和への祈りと銘打って花火を上げています。パンフレットの最後のページを見ていただくと、1階部分にシアターとありますが、これは、この豪勢な花火を無料で見せてくれる施設です。

防府からですと、私は東京経由で来たので6時間くらいかかりましたが、飛行機でうまくいけば4時間くらいかもしれません。ぜひ1度「アオーレ長岡」を見つつ、8月2日と3日は花火がありますし、あとは雪を見に来ていただければと思います。

私の話は、市役所というのは市役所の職員のためだけの場所ではなく、いろいろな人が集まっているいろいろなことをするための施設であるという意味では、英語でいうシティホールというのはほぼ日本語では市役所と訳していますが、元々はそうではなくて、ノーベル賞の晩餐会をするのはストックホルムのシティホールの中だったのですよね。

そういうイベントというのはシティホールで行われることがあるというので、市役所機能というのは市民の結節点になるということで、そういう目でみるとまちなかにあった方がよい。そして公共交通が便利なところであれば老若男女が集まれるということでそういうようなことも長岡市ではやったというご紹介で、少しでも私の話が防府の方のご参考になれば幸いです。今日はどうもご清聴ありがとうございました。